

(大分県が誇る高級魚 関あじ関さば スマート漁業実現に向けた5G利活用)

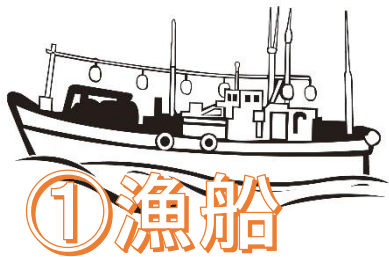
提案者名	大分ケーブルテレコム株式会社	連絡先	TakahashiMasaki1@jupiter.jcom.co.jp
------	----------------	-----	-------------------------------------

- 高齢化や担い手不足、気候変動などにより漁獲量が減少する大分県の「関あじ関さば」漁を5Gで支援する
- 漁師の経験や勘に頼った現状からIoTを駆使したスマート漁業への緩やかな移行（完全自動操業の実現に向けて）

〈その1〉 釣った魚の情報が瞬時に漁協へ



実験想定エリア(大分県・佐賀県)



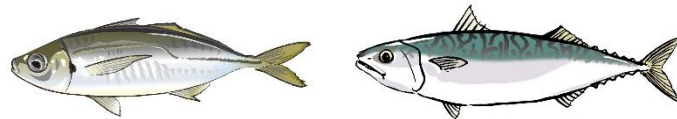
① 漁船

大分県漁協佐賀県支店の組合員は約500人
漁船数は約300隻

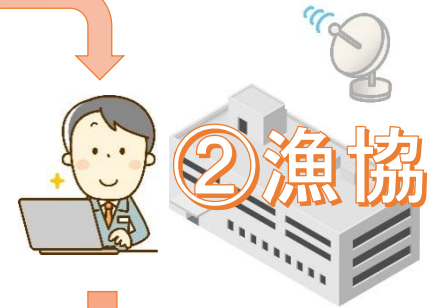
漁師の手によって一本釣りされた魚は、漁船のいけすに投入される。
いけすの底にはカメラが設置されており、最新のセンシング技術でそれぞれに**固体番号**が付与され、魚種・大きさ・重さ・数量が自動的に漁協に送信される。
カメラ映像の送信も同時に行われ、魚の様子は目視でも確認できる。

多数同時接続

5G

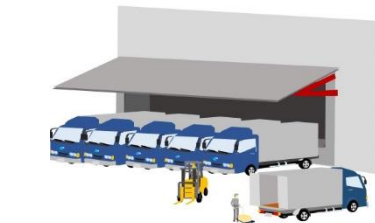


関あじ関さばの流通価格は通常の10倍ほど



② 漁協

5G



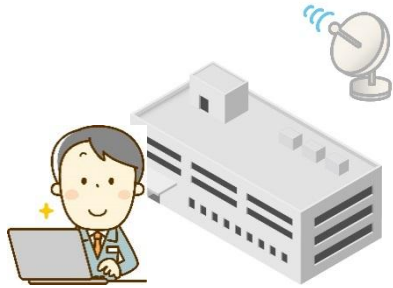
③ 配送

漁協はリアルタイムで送られてきた**固体情報**をもとに、**値段や販売先をあらかじめ決定**。
漁船の端末には**買い取り価格**が表示される。
水揚げ後も、**固体情報**をもとに仕分け、処置された魚は人の手を介さずに素早く配送される。
トラックによる運送中も、5G通信で**適切な温度と湿度**が保たれる。

〈その2〉

漁船で得られる情報をビッグデータとして蓄積

① 漁船からの情報収集



漁船に設置された計測機器で漁獲位置情報、漁獲量、漁獲時間、海水温、塩分濃度、リン・窒素量、気象情報を漁協へ送信。クラウドに蓄積する。



② 漁業者への情報提供

漁協はクラウドの情報を元にその日最も漁獲量が高いと予想されるエリアを漁業者へ情報提供する。



③ 未来の自動操業 漁船開発に向けて

蓄積されたビッグデータを元に漁船の自動操縦システムを開発。ロボットを搭載し、完全無人化を目指す。

超高速・超低遅延



漁師にとって漁獲水域情報の共有はタブーであるが、提供に応じて報奨金や買取価格の上乗せで対応、将来の地域漁業発展につながることを理解してもらう